

# 第2回東京大学技術発表会

平成30年2月15日(木)～16日(金)  
東京大学駒場Ⅰ、Ⅱキャンパス

## 初の部局開催－運営のあれこれ

大学院総合文化研究科・教養学部 共通技術室  
技術職員 関原 佑奈

この文書は平成30年10月16日に開催された第13回駒場キャンパス技術発表会の口頭発表「第2回東京大学技術発表会 初の部局開催-運営のあれこれ」で使用した発表資料に加筆修正を行ったものです。ノートにてスライドの解説を行います。本スライドにある日付「平成30年2月15日(木)～16日(金)」は第2回東京大学技術発表会の開催日です。

# 注意



本講演は予稿に書ききれなかった事項がメインとなります。

ですが、予稿を未読の方でも分かるようお話できるように努めます。

質疑応答では、予稿の内容についてもお答えいたします。

本講演の予稿は、技術職員等による技術報告集Vol.13(ISSN 1882-2029)に収録されています。また、東京大学学術機関リポジトリ上でも本発表スライド資料と同ページにて公開しています。

報告集の予稿も



**総合技術本部**

および

**第2回東京大学技術発表会実行委員会**とは

**一切関係のない**

あくまで**講演者個人の見解**による発表です。

本講演、本文書、および報告集の予稿は、総合技術本部および第2回東京大学技術発表会実行委員会とは、一切関係のない、あくまで講演者個人の見解による発表となります。なお、第2回東京大学技術発表会実行委員会は平成30年3月末を以って解散しております。

# 第2回東京大学技術発表会とは

東京大学の全部局技術職員が集まる技術発表会  
「全学技術発表会」

第1回東京大学技術発表会「第1回全学」  
2016年3月@弥生キャンパス

第2回東京大学技術発表会「第2回全学」  
2018年2月@駒場キャンパス

※2017年3月の総合技術研究会in東京大学は全国大会

東京大学技術発表会は、東京大学の全部局の教室系技術職員が対象の技術発表会です。「全学技術発表会」は正式略称ではありません。第1回は2015年度の2016年の3月に弥生キャンパスで開催されました。「第2回」は2017年度の2018年2月の15日と16日に駒場Iキャンパス及び駒場IIキャンパスで開催されました。

# 第2回東京大学技術発表会

**主催：総合技術本部**

**企画・運営：第2回東京大学技術発表会実行委員会**



講演者は  
第2回東京大学技術発表会実行委員会  
副実行委員長(広報担当)

実行委員会業務から得た運営のノウハウや  
幹事会が考えついたアイデアをご紹介します！

第2回東京大学技術発表会実行委員会の詳細は予稿をご参照下さい。

# 概要

- ・ 全学技術発表会のビジョン
- ・ 発信・技術継承のための学内サービス
- ・ 受付混雑回避のためのアイデア
- ・ シンポジウム案
- ・ 今後も全学技術発表会を続けていくためには

初っ端から重い話なのですが…

## 大事ななのは「全学技術発表会」のビジョン



学内の技術職員の結束を  
強めるための交流の場

学内・期間限定公開にすることで  
実務に則したより深い議論が可能

両立は難しい…



技術職員の活躍を学内外に  
広く周知する発表の場

技術職員の業務の学内周知  
学外へ東大技術職員をアピール

「学内の技術職員の結束を強めるための交流の場」:学外には公開できない情報を学内の技術職員内で限定的に共有し、学内の技術職員同士だからこそできる、より深い議論を可能にする場を提供する。

「技術職員の活躍を学内外に広く周知する発表の場」:東京大学に所属する技術職員以外の構成員に向けた技術職員の認知度の向上、東京大学の名において、学外、社会、世界に向けて情報を発信、公開し、本学の技術職員の豊富な知識や技術をアピールする。

2つを両立させるのは難しく、第2回東京大学技術発表会の計画当初の時点でどちらかに定めておくべき要の部分だったのではないかと、というのが講演者の見解、反省点です。



## 大事ななのは「全学技術発表会」のビジョン

第2回は交流重視？



学内の技術職員の結束を  
強めるための交流の場

学内・期間限定公開にすることで  
実務に則したより深い議論が可能



予稿の学内限定公開を決定したのが  
講演者登録開始後  
(総合技術本部企画調整室会議)

学内限定公開なのに…

予稿集冊子にISSN付与(第1回同様)  
国立国会図書館に納本(〃)  
他大学・研究機関に案内状および  
予稿集送付(〃)

世界中どこからでもアクセス可  
世界に東大技術職員をアピール

実行委員会は「学内外への周知を重視した活動」を主眼においた発表会として、主催である総合技術本部に計画を提示していましたが、講演者登録開始後に総合技術本部によって予稿のウェブ上での取扱いが「学内限定公開」に変更となりました。但し、予稿集冊子のISSN付与や広報等は第1回に倣うようにと総合技術本部から指示があったため、予稿はウェブ上以外では公開制限が掛からず、学外からの参加も募ることになりました。学外の参加者については個人情報取り扱いの関係上、参加登録時に住所情報を不要としていたため、予稿集の配布を当日に行わざるを得なかったことから、講演内容の詳細を事前に取得できない状態となりました。学外からも参加者を募る場合は、学内外で可能な限り対応に差をつけず、学外参加者にとっても有意義な発表会になるような運営を心掛ける必要があると思います。また、予稿集は国会図書館に納本しており、必要な手続きを行えば誰もが閲覧できますので、ウェブ上でのみ制限を設け、学内かつ期間限定公開とすることに本質的な意味はありません。予稿集をウェブ上で無期限無制限で公開すればアクセス性が向上しますので、発表会でなされた技術継承や問題提起について継続的な議論を促すことができ、その重要性を発信し続けることができるという利点があります。このため、予稿集の公開方法について再度検討する価値があると思います。

主催は技術発表会の趣旨やビジョンをしっかりと決め、実行委員会はそれに沿った運営を計画し、各担当もその趣旨やビジョンを実現できるように連携を強化することで、東京大学技術発表会の基盤が固められ、より意義のある重要な技術職員の一大イベントになるであろうと考えています。

## 大事ななのは「全学技術発表会」のビジョン

無制限公開の場合  
どういう事ができるか？

学内の技術職員の結束を  
強めるための交流の場

学内限定公開  
実務へのより深い議論



技術職員の活躍を学内外に  
広く周知する発表の場

技術職員の業務の学内周知  
学外へ東大技術職員をアピール

実行委員会が当初計画していた「学内外に広く周知」を選択していた場合、どのような取り組みが行われる予定だったかを紹介します。

外へ発信！そして技術継承のために



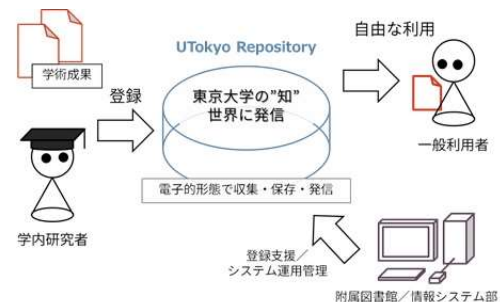
東京大学で発表、発刊された論文や雑誌、講義に使用したスライド等を電子化し、インターネット上に公開する

## 無制限公開(学内外問わず)

- 参加者への冊子媒体による予稿集の配布が必須でなくなる
- 学外参加者も予稿閲覧が容易

## 無期限公開

- 検索エンジンの検索対象なので参加者以外にも本学の技術職員の活動を知ってもらえる機会が増える



画像提供: 東京大学学術機関リポジトリ

**駒場キャンパス技術発表会の技術報告集も登録できる!**

東京大学学術機関リポジトリを利用して予稿集を公開すると、学内外問わず閲覧できます。参加者への冊子やディスク媒体による予稿集の配布の必要がなくなり、学外参加者も予稿閲覧が容易になります。googleなどで検索してヒットするようになるので、参加出来なかった方や発表会の存在を知らない人にも知ってもらえます。



<http://todai.tv/>

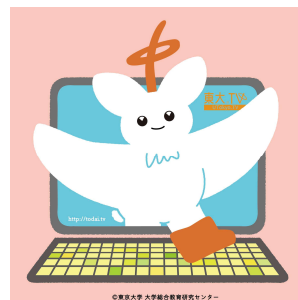
運営：東京大学 大学総合教育研究センター

東京大学で開催された公開講座や講演会を動画で配信するサービス

2013年12月5日の羽生善治竜王の講演  
2016年3月30日の梶田隆章教授の講演など

学内限定配信では、教職員の教育、支援、  
キャリアアップのための教材動画が  
数多くアップロードされています。

**発表会に参加できなかった方も  
後日、動画配信で聴講できる！**



東大TVマスコットキャラクターの  
ぴぴり氏

発表会内の特別講演やシンポジウムを東大テレビで配信してはどうか、  
という案がありました。講演者の希望や講演内容を十分考慮した上での  
利用になりますが、発表会に参加できなかった方も後日、動画配信で聴  
講することができるようになります。

外へ発信！そして技術継承のために



インターネット上に公開されデータとして残ることで  
東京大学の技術職員の活躍を外に向けて発信することができ  
その技術を必要としている人に技術を継承することができる

普段、自分の工場や研究室や実験室で目の前の業務と向き合っている技術職員ですが、これらのサービスを活用することで、東京大学の技術職員が持つ技術を必要としている人を助けることができ、それは社会貢献の一端を担うことに繋がると講演者は主張します。

# 受付混雑解消のために 編み出したあれこれ

- ☆発表会受付の名札立て
- ☆情報交換会の集金方法

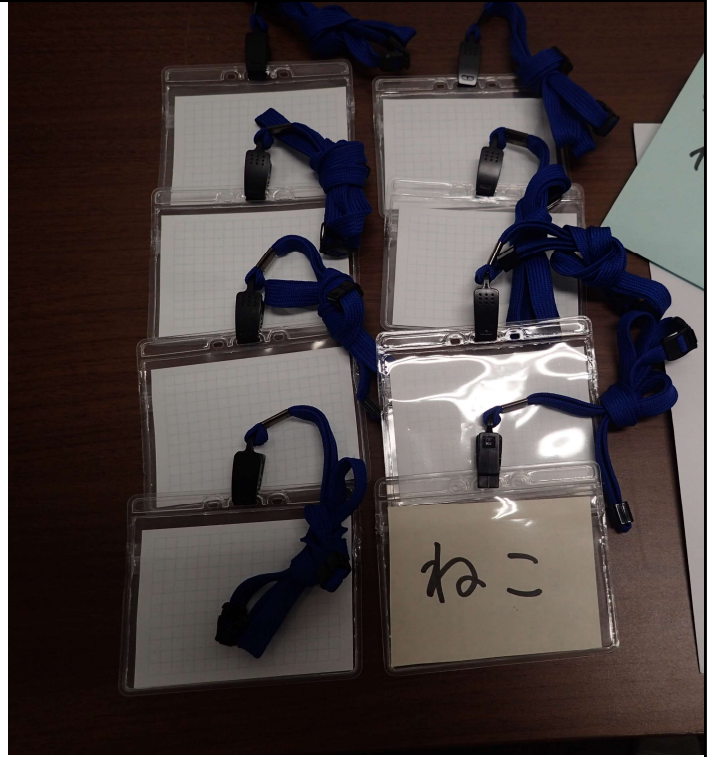


大きな学会や発表会、懇親会の受付はだいぶ混雑しがち…  
少しでもスムーズな手続きのために工夫したあれこれを紹介

第2回東京大学技術発表会実行委員会の幹事会が考えついたアイデアを紹介します。

## 発表会受付時に 配布する名札

- ・ 数が多すぎて置き場所に困る…
- ・ どこにあるか分かりにくい…
- ・ 途中で配置が乱れたり…





# 発表会受付の名札立て

氏名をカタカナで書いておく！

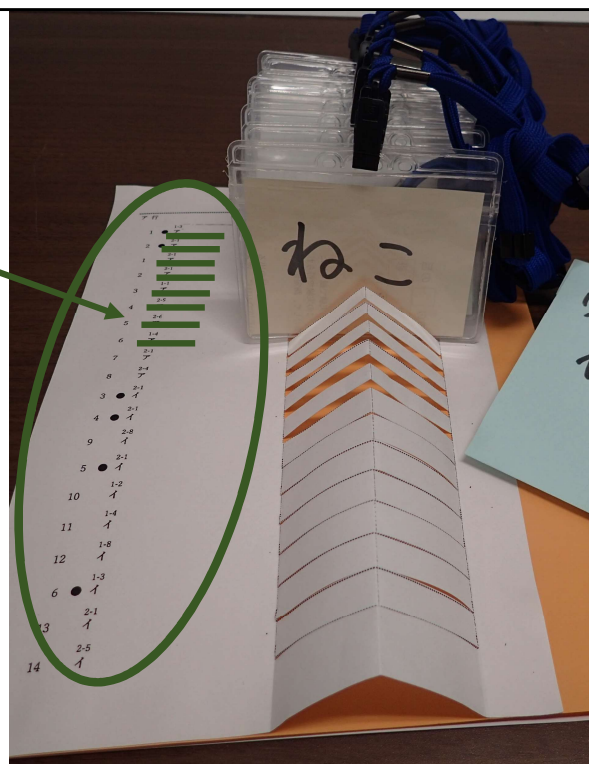
こうすると…

**スペースとらない！**

(A4サイズのスペースに  
名札20個配置可能)

**探しやすい！**

**受付済か分かりやすい！**



第2回東京大学技術発表会実行委員会幹事会特製名札立て。作り方は本文書末尾にあります。

## 情報交換会の集金を伴う受付

今回は第1回と同様に当日集金

第1回では…

反省を活かして第2回は…

- ・ 受付の混雑 →参加者から必要な係員の人数等を逆算  
総合受付と分けて作業負荷を分散
- ・ 混雑による開会の遅延 →時間に余裕を持って開会
- ・ 集金トラブル →過不足なく集金・当日欠席者からも

入念な準備を行い、やり方を工夫することで、  
当日集金でも問題なく受付が行える！  
具体的な方法や詳細は予稿を読んで下さい。

第1回の情報交換会でも当日集金を行いました。受付の混雑、混雑による開会時刻の遅れ、また集金トラブルが発生しました。

第2回は反省を活かし、受付では一人当たりの受付にかかる時間を見積もり、発表会のスケジュールとして受付に割り当てられる時間と参加者の数から必要な窓口数そして係員数を逆算し、適切に人員を配置することで、受付の混雑を回避しました。また、技術発表会そのものの総合受付では集金を行わず、情報交換会会場への入場の際に集金を行ったことでお金のやり取りを最小化することが出来、紛失等のリスクを減らしました。当日は、混雑も無かったので、時間に余裕をもって開会することができ、また、当日欠席者も含めて過不足なく集金することができました。

# シンポジウム

第2回は、タイムスケジュールの関係上、シンポジウムは行わなかった



実行委員会の会議で出たシンポジウムのテーマは主に

- **技術職員の未来**
- **技術の継承**
- **駒場の紹介 (→特別企画)**

駒場の紹介は、開会式のあとに行った特別企画という形で取り上げることができました。詳細は予稿を御覧ください。

- **技術職員の未来**
- **技術の継承**



人員削減による技術職員の減少に  
引き継ぎもままならず、後任の雇用もなく消えたポストも

今後の技術職員のあり方や、技術継承への関心の高さが窺えた

「技術職員の未来」、「技術の継承」は難題なテーマですが、東京大学ビジョン2020が掲げられている今だからこそ議論したい内容ではありました。第2回東京大学技術発表会実行委員会の会議では、人員削減による技術職員の大幅な減少で引き継ぎどころか後任の雇用すらない、という現状を訴える声も挙がりました。会議ではどの部局からも、今後の技術職員のあり方や、技術継承への関心の高さが窺えました。

## 今後も「全学技術発表会」を続けていくためには…

運営と発表を両立させるのは  
かなりの労力が必要



開催部局でない部局の技術職員が  
積極的に発表することが重要なのでは

講演者は、第2回東京大学技術発表会 実行委員会の幹事会メンバーとして2017年度の1年間、かなりの労力と時間を実行委員会業務に割きました。実行委員以外の駒場所属の技術職員にも、発表会のために本業の時間を割いて各種業務を行っていただきました。運営業務と並行してポスター発表や口頭発表の準備を行った人は、より大変な時間と労力がかかったのではないかと思います。開催部局なのに駒場所属の技術職員の発表が少ない、という声もあるのかもしれませんが、全学技術発表会は開催部局の技術職員の発表が多くなければいけないわけではない、と講演者は主張します。

今後も「**全学技術発表会**」を続けていくためには…

## 部局の特色ある技術発表会

開催部局

**特別企画  
見学会**

発表会を運営して  
開催部局のことを紹介する

他部局

**口頭発表  
ポスター発表**

会場に行って発表して  
開催部局のことを知る

全学技術発表会のビジョンに左右される部分が大いですが、開催部局は、ホストとして運営・協力員業務に集中し、部局の特色ある技術発表会を作り、開催部局以外の技術職員は、発表を口実に開催部局を訪れ、特別企画や見学会に参加し、開催部局や他部局のことを知ってもらう、というのも一つの全学技術発表会の形であると考えます。

# まとめ

- ・「全学技術発表会」のビジョンを定める必要性
- ・発信・技術継承のための学内サービス



- ・受付混雑回避のためのアイデア
- ・シンポジウム案
- ・今後も全学技術発表会を続けていくためには  
開催部局以外の方が積極的に発表していこう！

## 謝辞

第2回東京大学技術発表会を開催するにあたり、  
大変多くの方のご協力とご支援を賜りました。  
改めてお礼申し上げます。  
本当に有難う御座いました。

そして、今回発表させていただくにあたりましても、  
第2回東京大学技術発表会実行委員をはじめ、  
各関係部署にも大変お世話になりました。  
ご理解、ご支援下さいまして本当に有難う御座いました。

この発表が何かのお役に立てることがありましたら、  
幸いです御座います。

皆様のご協力とご支援のおかげで第3回へ繋げることが出来たと思っております。本当に多くの方にお世話になりました。改めて厚く御礼申し上げます。



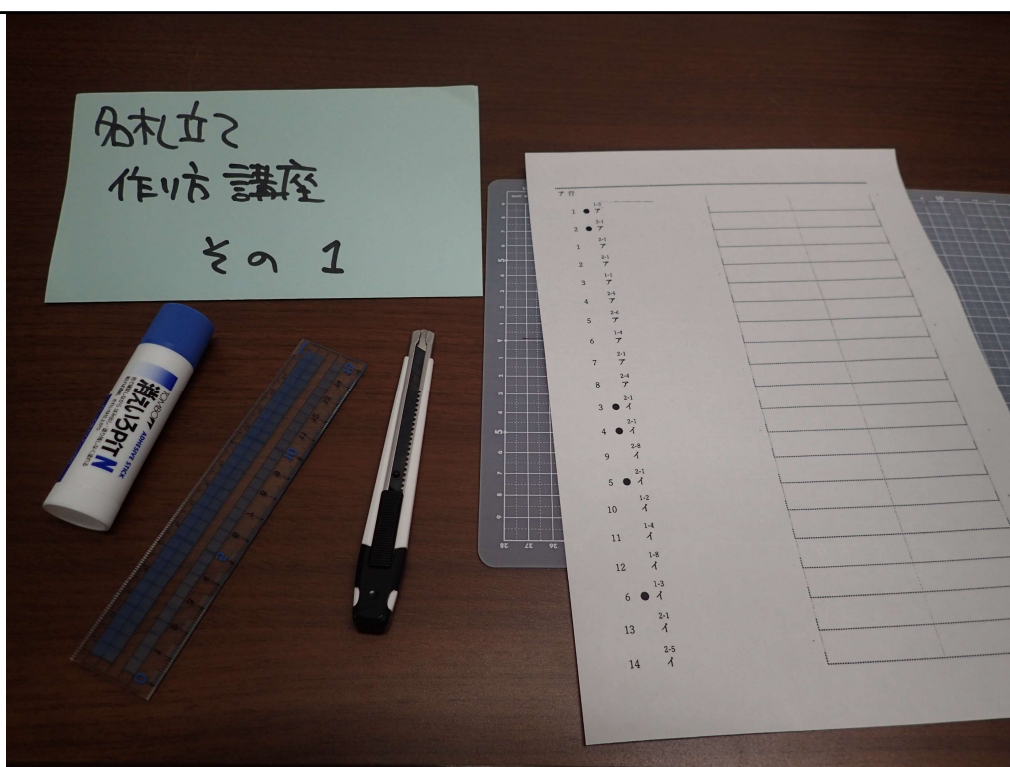
ご清聴  
ありがとうございました



## 名札立ての作り方

## 用意するもの

参加者の名前を書いた紙  
カッター  
線引き  
糊  
カッターマット



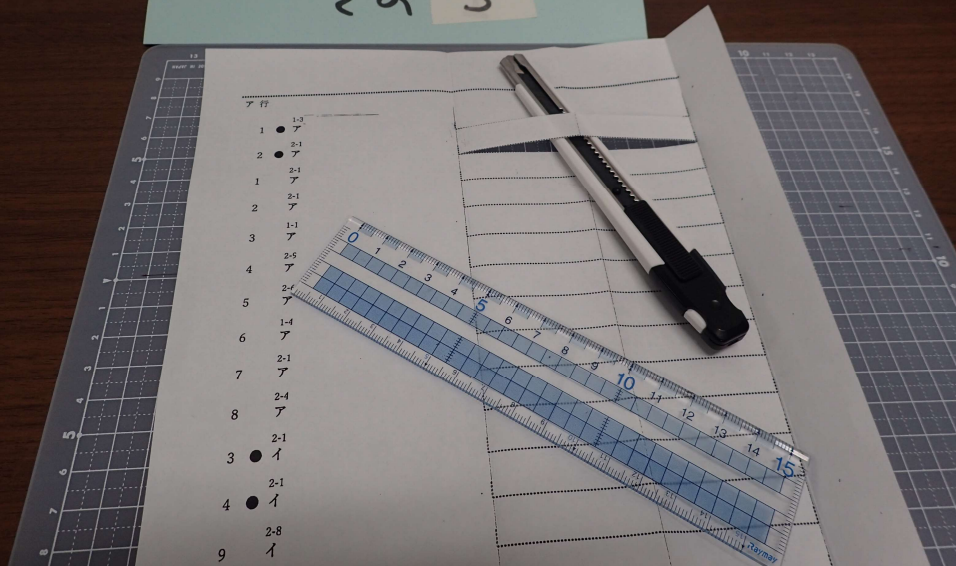
紙を折ります。



分札立て  
作り方講座

その 3

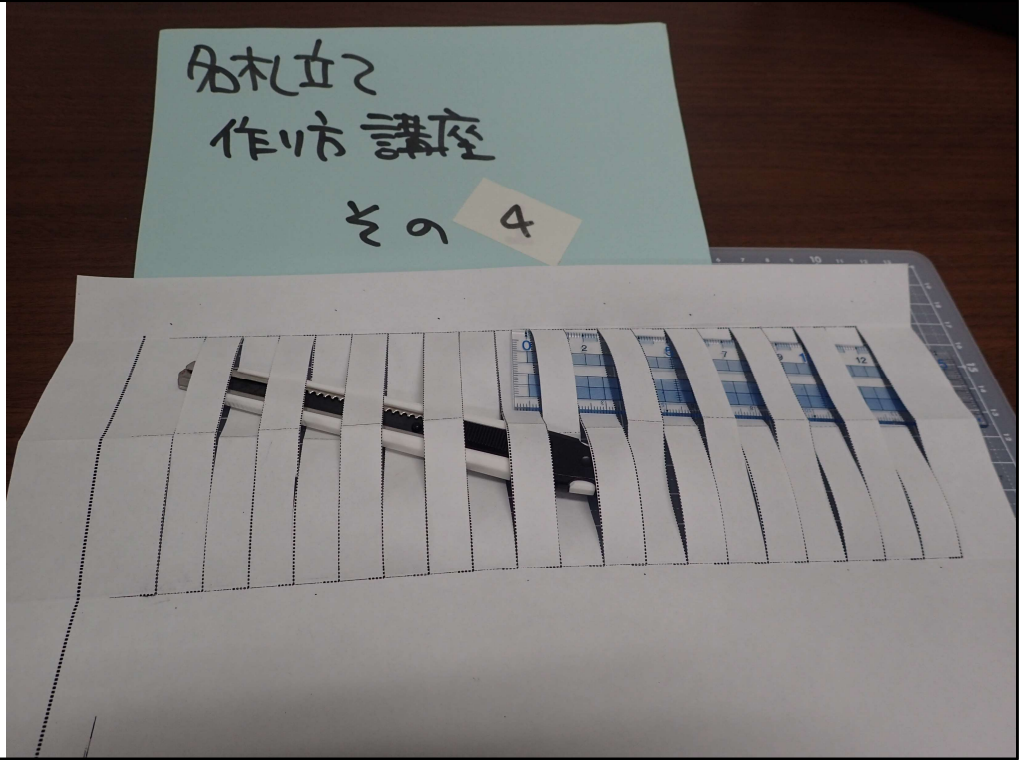
点線に沿って切ります。



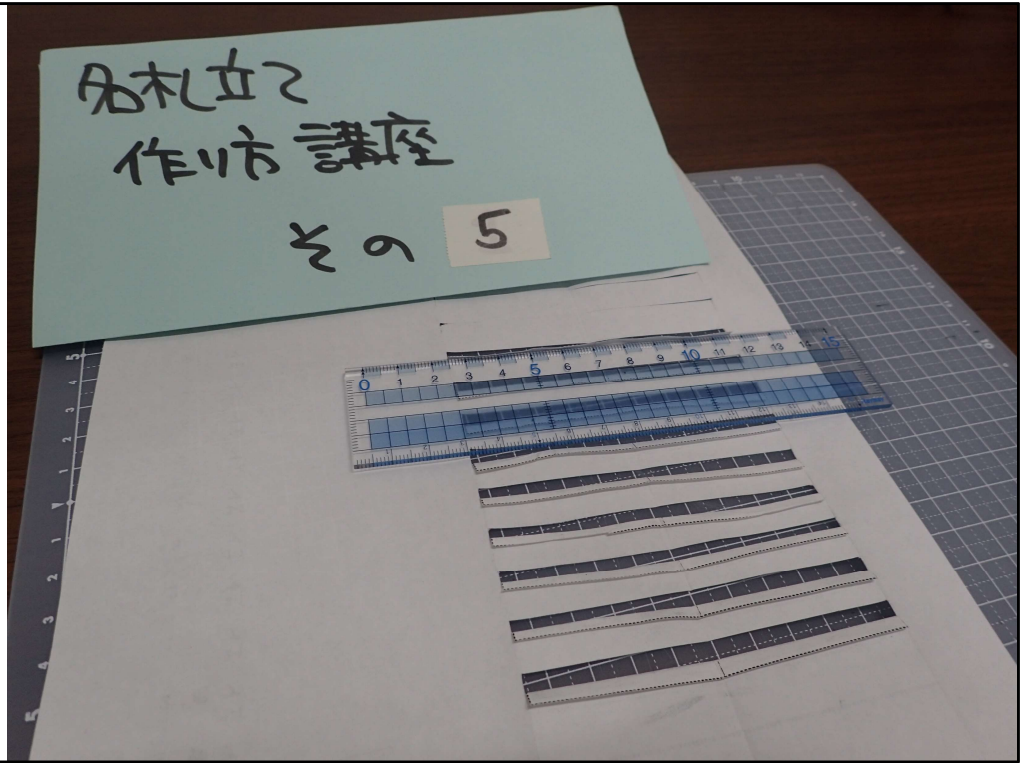
分札立て  
作り講座

その 4

切り終わった様子

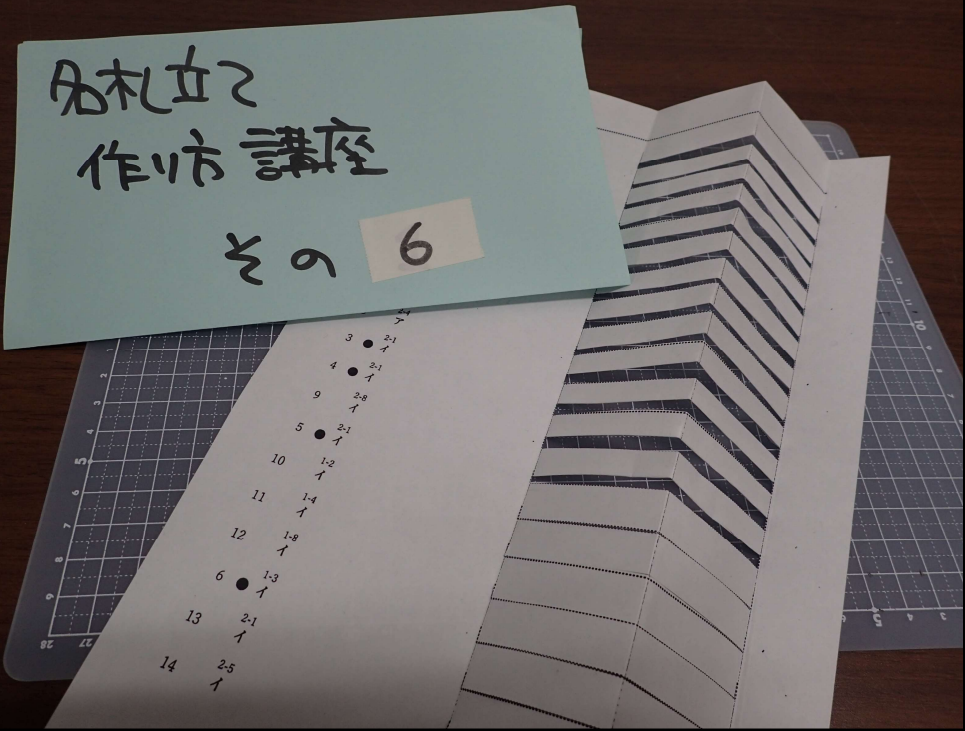


裏返しにして  
折り込みます。





表から見た様子

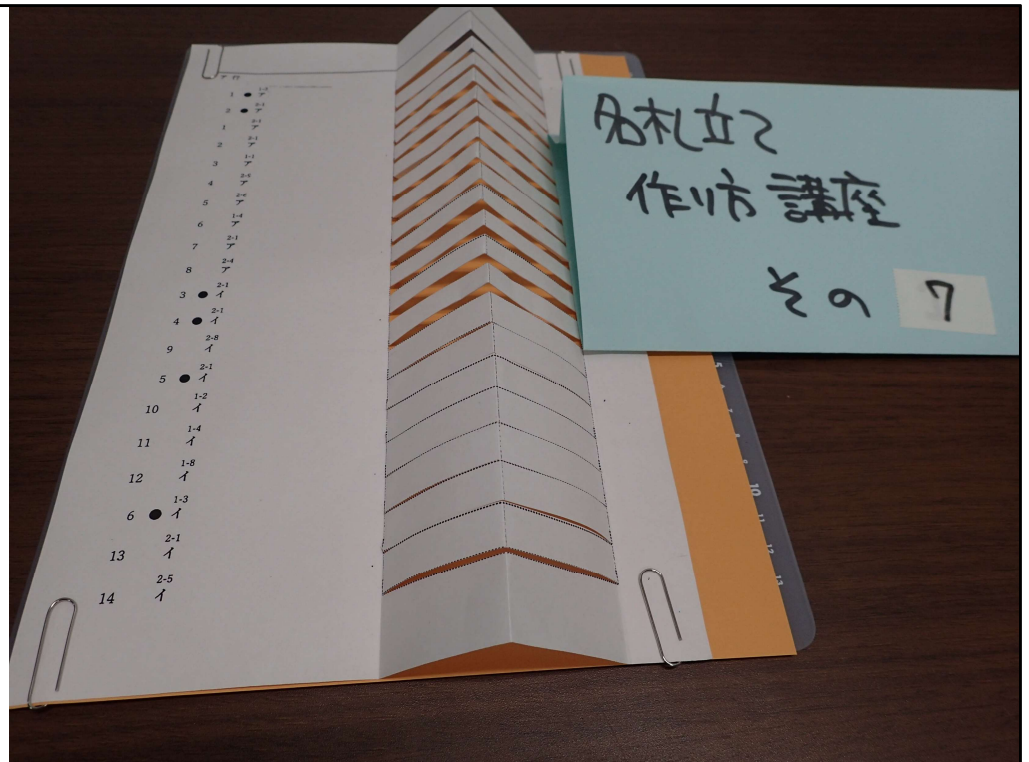




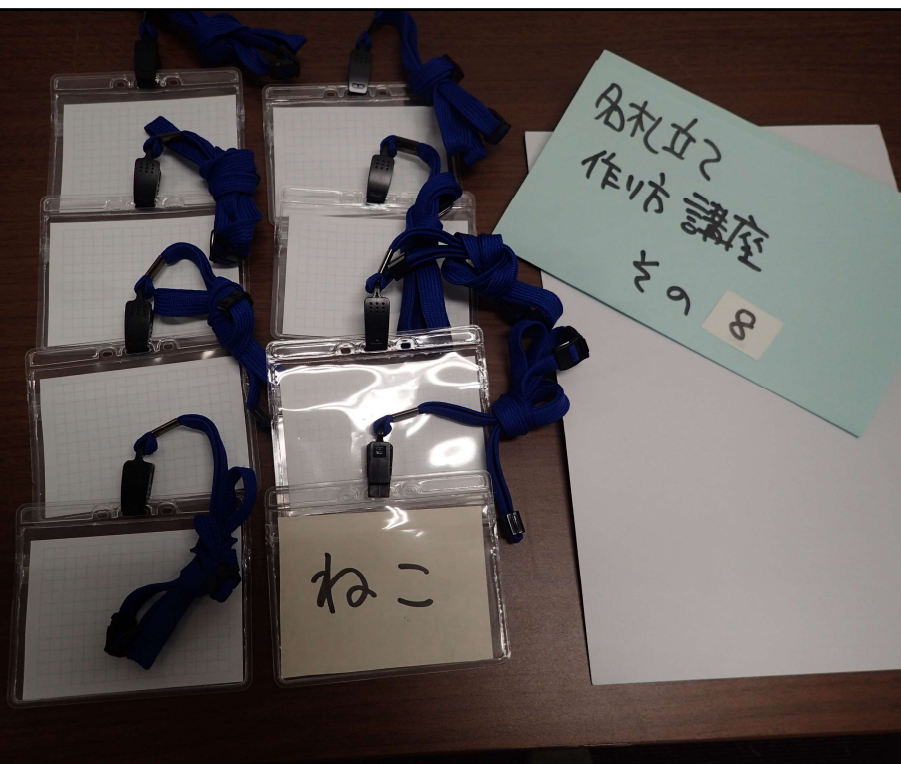
糊でA4普通紙に貼り合わせ

完成

(下半分は折込作業を省略しています)

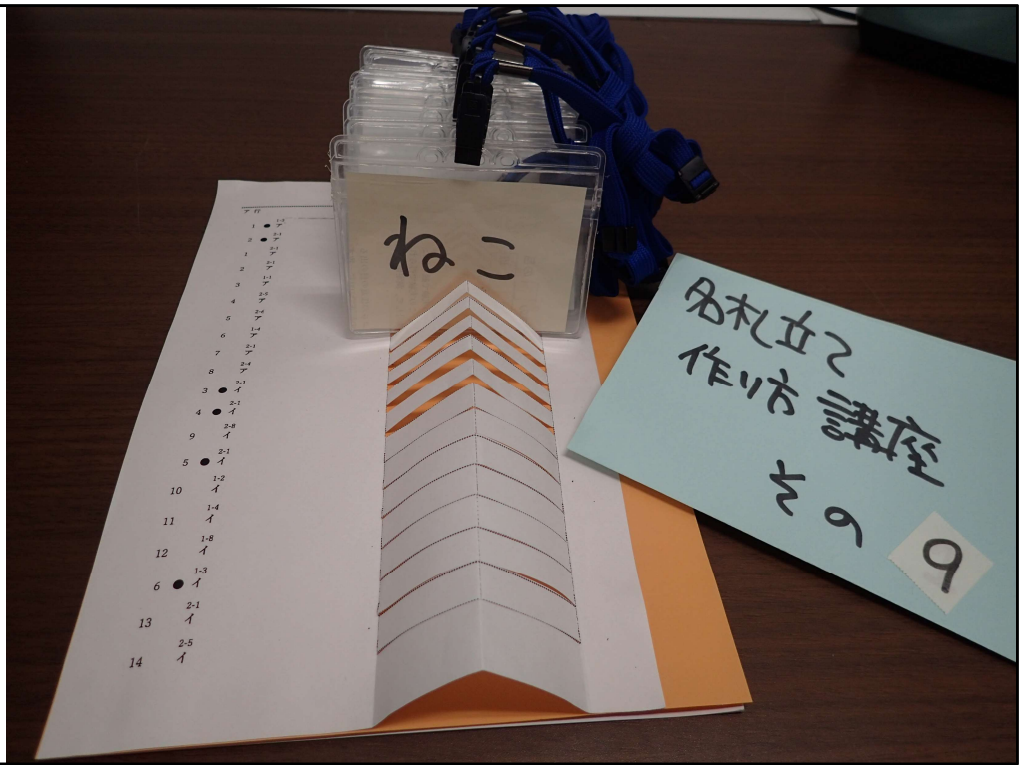


名札8個が



スッキリ!

A4サイズ1枚で  
名札が20個





以上で発表スライドは終わりです。

御覧くださいまして有難う御座いました。お役に立てることがありましたら幸いです。